



10月24日に伊香保温泉だんだん広場で、旅館の女将さんたちと「おもいやり入浴着」のPR活動を行いました。

「おもいやり入浴着」は、乳がん手術や皮膚移植などによる傷跡がある人が、着用したまま温泉に入ることができる入浴着です。令和3年度予算編成の際、そういった立場の

人の話を伝えた女性職員の提案で実現し、8月に市内の旅館や日帰り温泉施設に配布しました。

PR活動の際、「おもいやり入浴着」を知っているかについてアンケートをしたところ、約9割の人が知らないと答えました。まだまだ入浴着の存在や利用については知られていません。

先日、全国心臓病の子どもを守る会の人たちと懇談を行いました。その際、心臓疾患は外形からは見分けがつかないので「ヘルプマーク」を付けているが、なかなか意味を理解してもらえないと話していました。

「ヘルプマーク」は、義足や人工関節、内臓疾患など外見から分からなくても、援助や配慮を必要としている人が周囲の人にそれを知らせるマークです。このほかにも、身体や聴覚の障害、オストメイトなど、さまざまな障害を知らせるマークがあります。おもいやり入浴着同様、まだまだ知られていないように思えます。

困っている人の立場や気持ちに寄り添う「おもいやりの心」を大切に、これからも「誰一人取り残さない共生社会」をみんなで作っていきましょう。



▶女将さんたちと一緒にPR活動を行いました